

サーサナ

第37号 仏暦2559 (西暦2016) 年11月26日

四海の内みな兄弟

▶世界人権宣言第2条「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。」

▶日本国憲法第14条「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」

このように、今でこそ平等（反差別）という考え方はあたりまえになっていますが、それはごく最近のことにすぎません。長い間の人間社会の歴史の中では、差別があたりまえのことでした。

カースト差別の厳しいインドに生まれた釈尊は、しかしながら、「生まれによって卑しい人となるのではない。生まれによって尊い人となるのではない。行為によって卑しい人ともなり、行為によって尊い人ともなるのである」として、そのような差別を批判しました。しかしインドの常識の中では、平等を理想とする仏教教団はやがて影響力を失い、社会の片隅においやられ、ついには消滅します。（最近になって復活の動きが盛んになっていることについては、以前に述べました。）

差別が常識であったのは中国でも日本でもおなじでした。そんな中でも、中国浄土教の祖師・曇鸞大師は「遠く通ずるに、それ四海の内みな兄弟とするなり」として、平等の理念を再確認されます。差別とか平等というのは、なにも政治的なことだけをいうのではありません。人間としてのつながり、縁（えにし）を大切にすることが基本にあるのです。私たちはだれひとりとして、世界の人々と無関係に、そのおかげをこうむらさずには生きていくことはできません。そのことを自覚したとき、自分本位の見方が転換して、すべての人を兄弟・同朋として尊ぶことができますはずです。

殺伐とした現代社会。民族的憎悪を煽り立てる言動（ヘイトスピーチ）、さらに物理的暴力や紛争・戦争も絶えません。その中にあって、ともすれば流されがちになってしまう私たちを、阿弥陀様が見守っておいでになります。そして励まして下さい。「慈悲と平等の方向をめざし歩み続けなさいよ」と。今、私たちに仏教徒としての真価が問われています。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます。

十二月 成道会（じょうどうえ）

約2500年前、北インドでお釈迦様がさとりを開かれ仏陀とされました。12月8日、35歳のときであったと伝えられています。お釈迦様のさとりから仏教は始まりました。私たち仏教徒にとって最も神聖な記念日です。

- ❖ 日 時 12月8日（木）
午前10時～11時半
【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行
和文仏教聖典読誦
正信偈同朋奉讃
ビデオ上映
『仏陀誕生・仏陀成道』
（聖地を紹介しながら、お釈迦様の生涯をたどります）
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』
『正信偈同朋奉讃』
（または『真宗大谷派勤行集』）
- ❖ 施 本 真宗教団連合カレンダー、『今日の言葉』



写真はブッダガヤの大塔。この地でさとりを開かれました。

十二月 門徒総会・忘年会

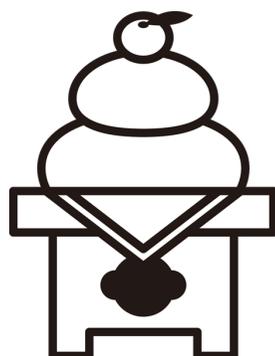
上記成道会に引き続き、門徒総会を開催します。この一年間の活動報告及び今後の活動計画についての話し合いをします。皆さまのご意見をお聞かせ下さい。終了後、お斎（忘年会）があります。出席される方は、12月5日までにご連絡下さい。ビンゴゲームがあります（ゲームの賞品になるもの[未使用品]をご提供いただくとありがたいです）。

- ❖ 総 会 11時半～12時
- ❖ お 斎 12時～
（今年は「イタリアンのお弁当」です）

一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖ 日 時 1月1日（日）
午前10時～11時
【午前9時半から受付】
- ❖ 内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、
年頭法話
- ❖ 持ち物 『和訳正信偈』
『真宗大谷派勤行集』
- ❖ 記念品 鏡餅（お子さんには菓子袋）
- ❖ ぜんざいの接待があります。



二月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2015年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。

- ❖ 日 時 2月14日（火）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内 容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
法話「三途の黒闇」（住職）
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただけるとたすかります。郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

東別院報恩講

- ❖ 日 時 12月13日（火）から18日（日）
 - ❖ 内 容 伝統法要、音楽法要、講演会、御伝鈔、リレー法話など
- 参照：<http://www.ohigashi.net/news/detail/141>

東本願寺リーフレットより いま浄土とは...

浄土は仏さまの世界です。その仏さまの世界に生まれることが私たちにとっての救いです。それが真宗の基本的な教えです。浄土とは、安楽国とも安養国ともいわれる阿弥陀如来の国土です。私たち人間の生きる世界になぞらえて国土として現されています。

人間の救いがなぜ国土として、つまり、浄土として現されているのでしょうか。それは私たちの救いが、個人的な私一人の心の安らぎにとどまらないからです。もちろん、私たちの心が落ち着き、心が安らかになることは大事なことでしょう。

しかし、人間の救いということになりますと、ただ単に私一人の心が安らぐことでは本当の救いになりません。あらゆる人々と共に安らぐことが成り立たないと、私たちは救われないのです。

なぜなら、人間は、文字どおり、人と人との間柄を生きる存在だからです。私たちは関係を生きています。世界とともにある存在です。他者とともに生きる存在です。

ですから、私たちが日々感じる喜びも悲しみも、それはかかわりの中で起きる感情であります。生活をともにする相手が悲しんでいるときに、私ひとりが喜べますか。悲しいはずです。それが人間を生きることの具体的な姿です。

そのような私たちの生きることの現実が、真宗が浄土をもって人間の救いを明らかにしてきた根本的な理由です。浄土とは阿弥陀経に「俱会一処（くえいっしょ）」（ともに一つ世界に生きる）とあります。あなたも私もともに生きることのできる世界です。

それは、決して私たちが普通に考えているような死後の世界としての「あの世」ではありません。また、ユートピアとしての理想郷でもありません。それは、人間を見失ったものに人間を回復させる仏さまの世界なのです。

そういう人間回復の大地としての浄土こそが、人を傷つけ踏みつけてやまない私たちの誰もが、何よりもいただかなければならない世界なのです。

南米開教区監督 尾畑 文正



真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞式（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
